

特集

ちいさな傷の
せぼね手術 P-2

なぜ、いま小侵襲
手術を行うの？

- お役立ち情報
正しく薬を飲むために… 第10回 P-6
- 情報カード
患者さんの安全への取り組み その6. P-8
- 外来紹介 神経内科 P-9

病院理念

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ



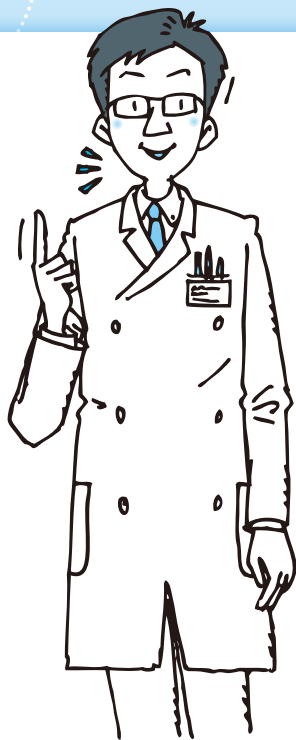
社会福祉法人聖隷福祉事業団

総合病院 **聖隷浜松病院**

ちいさな傷のせぼね 手術

～なぜ、いま小侵襲手術を行うの?～

せぼねは、頭から骨盤までの身体を支え、脊髄神経の通り道になる重要な器官です。その疾患に対する診断と治療は、MRIの普及により安全かつ簡便にできるようになりました。それにより、^{くび}こんなにも頸や腰の病気は多いのかとわかるようになり、治療も大幅に進歩しました。



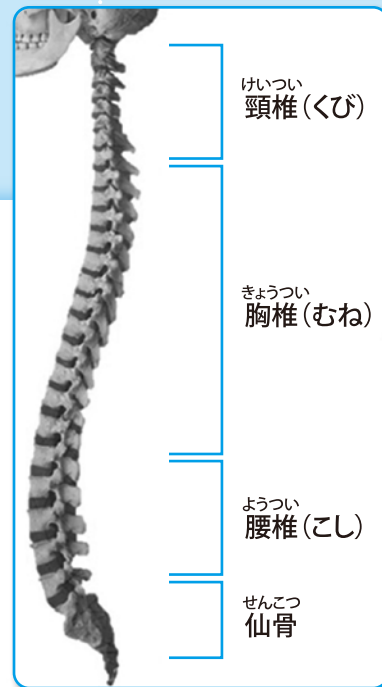
診 断や治療の発展により、せぼねの疾患によって生命の危険にさらされることは多くありませんが、身体の痛みや手足の麻痺はせぼねの疾患が原因であることが非常に多いということがわかってきました。痛いことや歩けないこと、動けないことは生活の質を大きく下

げます。場合によっては、寝たきりになったり、引きこもったり、仕事に不都合を生じるなどの障害が起こります。そのため、早期の治療は必要不可欠と考えます。

しかし、せぼねは身体の中心にあるため、“危ない”、“入院やリハビリが長くかかる”などの問題があり、なかなか治療にたどり着けませんでした。しかし、2000年代に入り、小侵襲手術^{*}が開発・運用され始め、数日の入院や休業で治療できるようになってきました。

このような背景から、小侵襲手術はまだそんなに知られてはいませんが、今後を担う重要な治療法と考えます。今回は、当センターで行っている脊椎小侵襲手術中心にご紹介します。

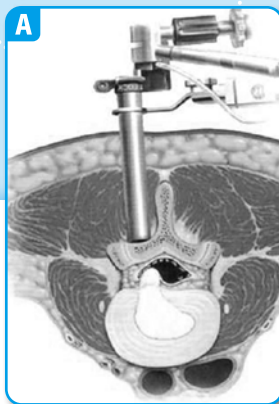
***小侵襲手術**…傷が小さく、出血が少ないため、体への負担が小さくて退院や社会復帰が早くなる次世代の手術



どんな手術なの？

小侵襲の治療といえば、胃や大腸のカメラ、腹腔鏡／関節鏡が挙げられます。入り口は狭いけれどもその中に大きなスペースがあり、外からは中の様子は見えませんが、入ってしまえば中では自由に動き回れるという原理を利用しています。それに対して、脊椎は非常に狭いところで手術を行い、自由に動き回れるスペースがないため、上記の内視鏡の概念は利用できません。また、脊椎は身体を中心近くに位置するため、穴をあけるにも深い穴となってしまいます。

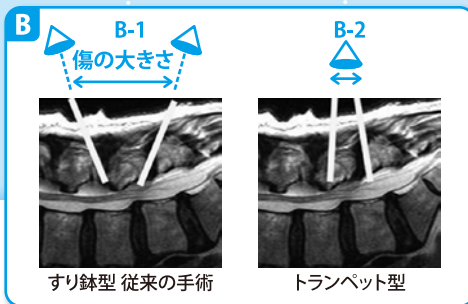
では、脊椎内視鏡を始め、脊椎小侵襲手術ではどのようにしているかという点、図Aのようにカメラをできるだけ手術する場所の近くに持っていくことで、トランペット状に狭い部分を広げるといった方法をとります。図Aのように視点をなるべく手術に必要な場所に近くとることで、いままではすり鉢型B-1に手術部位を見ていたものをトランペット型B-2に拡大し、皮膚に近いところの傷やダメージを少なくできます。



(METRx Medtronic)



(OMNIPentero 900. Carl Zeiss)



また、手術そのものは従来通りの手術となるため、今までの経験や知識を生かすこともでき、小侵襲手術だから危険であるとか、手術時間が延長するなどのデメリットもほとんどありません。

どんな疾患が適応になるの？

適応となる疾患は、神経の通り道が狭くなる狭窄症（傷の大きさ1.5～2cm）、支えとしての機能が失われた不安定症／すべり症（小侵襲固定：傷の大きさ3～4cm）など、90%近くの腰椎疾患に対応できます。また、昨年より頸椎小侵襲手術も行っています。従来の手術と全く同じことを約3cmの傷で手術を行うので、髪の毛を切らずに手術できます。

せほねセンターでは“最小・最短を安全に”を目指し治療を行っています。当院ホームページでもご紹介していますので是非ご覧ください。

*詳しくは、[聖隷浜松病院 MIST](#) で検索！

正しく薬を飲むために…

くすりのかたち

薬にはいろいろな種類があるのをご存じですか？よく使用される内服薬以外にも、呼吸を楽にする貼り薬や吸入薬などさまざまな薬が使われています。そこで今回は、薬の種類と特徴についてご紹介します。

内服薬

口から飲んで腸から吸収されることで効果を示す飲み薬です。内服薬には錠剤、カプセル、粉薬、水薬などいろいろなタイプがあり、患者さんの年齢や状態、飲み込みのしやすさなどによって使い分けがあります。錠剤やカプセルの場合、苦みを抑えたり薬の変化を防いだりするために特殊な加工をしてある薬もありますので、噛んで飲むことはやめましょう。



貼付薬

貼付薬は皮膚に直接使用することで効果をもたらす薬です。痛み止めの湿布のように貼った部位でのみ効果を示すものが多いですが、喘息発作や狭心症を抑える薬は、身体のどこに貼っても全身に効果が行き渡るタイプの貼付薬です。かぶれる場合には貼る場所を変えるなどの対策をすると良いでしょう。

吸入薬

喘息予防の薬など吸入することで効果を示す薬です。肺から投与することで全身の副作用を抑えることができるなどのメリットがありますが、吸入方法にコツがあるのが難点です。使用方法がわからなくなったら遠慮なく薬剤師に相談してください。

注射薬

筋肉、皮下、血管など、針を刺して直接身体に投与する薬です。注射薬を自分で使用できるのは糖尿病に用いるインスリンくらいでしたが、最近では関節リウマチや骨粗鬆症などさまざまな病気で使用するようになり、患者さんの治療の幅が広がっています。



薬の使い方わからないことがありましたら、B棟1階おくすり相談窓口、もしくはかかりつけ薬局でご相談ください。

シリーズ 聖隷浜松病院の
患者さんの安全への取り組み——その6.

“転ぶ危険を減らすよう努力”する

当院は、国際的病院機能評価機関であるJCI (Joint Commission International) の認証を2012年11月、日本で5番目に取得しています。

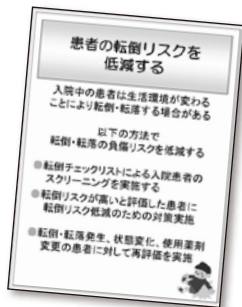
その審査項目は1200以上に及びますが、患者さんの安全を保護する仕組みの整備と徹底が厳しく評価されます。現在当院では、特に以下の6項目の防止を強化しています。

- ① 患者間違い
- ② 医療者間のコミュニケーションエラー
- ③ 薬剤の不適切な使用
- ④ 手術部位の間違い
- ⑤ 医療に関連した感染
- ⑥ 転倒・転落

いずれも注意して当たり前の内容ばかりですが、実は世界中でこの6項目が防止できないために患者さんの安全が脅かされていることがわかっています。

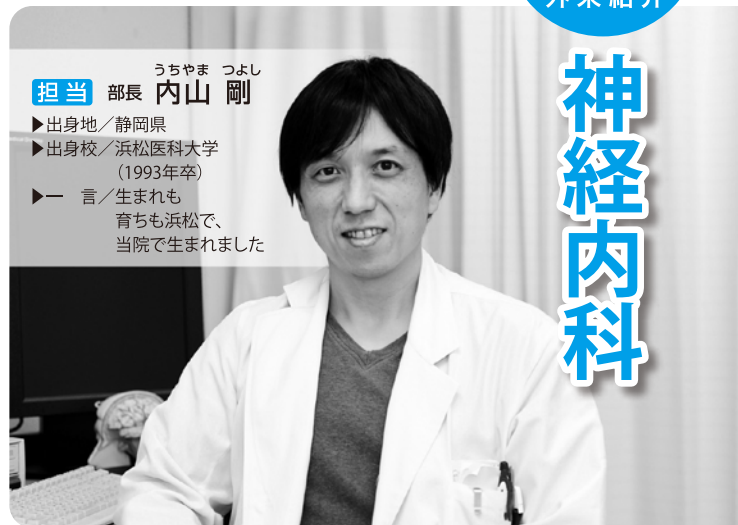
今回は、「⑥ 転倒・転落を防止するための院内の取り組み」についてご紹介します。

入院中に転んでしまう原因は、慣れた住居と違う環境や、病気そのもの、治療や検査が身体に影響を及ぼす場合など様々です。2013年度、当院では入院患者1,000人に3人の割合で転倒・転落が発生し、10万人に2人の割合で骨折などの傷害を伴う転倒・転落が起こってしまいました。この割合は全国の病院との比較ではむしろ少ない方ですが、限りなく0(ゼロ)にしていけることが当院の目標です。病院職員一丸となって、来院してくださる患者さんの転ぶ危険性(リスク)を減らすよう安全対策活動を継続しています。



▲職員にはこのようなポスターを掲示し、周知しています

文責：安全管理室 中野 由美子



- 担当 部長 内山 剛
- ▶ 出身地 / 静岡県
 - ▶ 出身校 / 浜松医科大学 (1993年卒)
 - ▶ 一言 / 生まれも育ちも浜松で、当院で生まれました

神経内科

健脳・救脳を目指して

約4年ぶりの外来紹介の機会を得て、小学生時の『のびゆく浜松』に掲載していただいた時のような身の引き締まる思いです。

神経内科は、頭痛・めまい・しびれ・もの忘れ・歩きにくさ・ムセなど、脳や脊髄、神経、筋肉に及ぶ心身に幅広く関わる病気に対し、信頼される診療を常に目指しています。

緊急対応から予防対策も含めた脳卒中・てんかんの治療に対する院内センター機能化や、患者さんを中心とした在宅療養に役立つ在宅指標「ザイタックス」の作成など、ハード面を強化しています。さらに、最近では県西部の神経内科医師とともに、「Care-Nursing-TreatmentプロGRESS」を立ち上げ、高齢社会・ケアに関わる多職種との顔の見える地域介護の交流を通し、強固なソフト面も構築し、『しなやかにのびゆく聖浜』として地域に根付いた健脳・救脳を推進しています。



聖隷浜松病院からのお知らせ

■ 紹介状をお持ちください

紹介状及び**予約が必要な診療科(紹介・予約制)**がありますので、事前にご確認ください。なお、当院を受診される際に、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合は、初診時**選定療養費**として**3,240円**を別途ご負担いただいております。

当院では、基幹病院と地域の「かかりつけ医」(医院、診療所等)が役割を分担し、連携しながら適切な医療を提供する「地域医療連携」を推進しています。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

■ 初診時は医療機関からの事前予約にご協力をお願いいたします

予約時には、症状や診療科の確認等が必要となることがあります。原則として医療機関からご予約をお取りいただくようお願いいたします。

やむを得ず患者さんから予約する場合は診療科・担当医をご確認のうえ、下記までご連絡ください。患者さんの待ち時間軽減のためにもご協力をお願いいたします。

地域医療連絡室(JUNC) ☎ 053-474-8801

(月～金曜 9:00～17:00・土曜 9:00～12:00／祝祭日を除く)

■ 再診(診察・検査等) 予約変更のご案内

予約変更は、適切な診療提供に支障をきたすおそれがありますのでお控えください。やむを得ず予約変更を希望する場合のみ、下記までご連絡をお願いいたします。

変更の際は医師等に確認が必要なため、お時間や日数がかかりますことをご了承ください。

外来受付センター ☎ 053-474-0100 (月～金曜13:00～16:45)

- お手元に診察券・予約券等をご準備のうえ、お電話いただきますようお願いいたします。
- 時間帯によってはお電話がつながりにくい場合がございますのでご了承ください。

■ 面会について

- 面会時間…(月～土曜)14:00～20:00、(日曜・祝日)10:00～20:00
- 産科・小児科病棟の面会者は1階総合受付で手続きのうえ、面会者札の着用をお願いいたします。



ジョイント・コミッション・インターナショナル認定
日本医療機能評価機構認定
地域医療支援病院



日本医療機能評価機構



医療の品質改善受賞病院



社会福祉法人聖隷福祉事業団

総合病院 **聖隷浜松病院**

〒430-8558 浜松市中区住吉2-12-12 ☎ 053-474-2222
発行責任者 病院長 鳥居 裕一